



1 自己評価

I 評価結果

- 1 基礎学力の定着と自ら学ぶ力を育てる。(学力の向上)
 - ・ 個別指導を繰り返し行った結果、児童の学習成果は、少しずつ向上している。8割の児童が目標を達成することができた。全職員で全国学力テストのB問題を実施し、これから求められる学力について確認できた。
 - ・ 本時のめあてについて、個に応じた支援をすることで、全ての児童が自分の考えをもつことができた。
 - ・ 授業では、全ての児童が自分の考えを表現することができ、他の人の考えと比較検討し、考えを深めることができた。
 - ・ 放課後学習が定着し、児童の学力が着実に向上している。また、朝の学習も効果的に実施できた。
- 2 児童理解を深め、やさしく思いやりのある児童を育成する。(豊かな心の育成)
 - ・ 児童同士でトラブルが起こったとき、すばやく対応した結果、良好な関係へと比較的早く改善することができた。保護者とも連絡を取りながら進めたことがよかった。
 - ・ 縦割り班活動により、高学年児童のリーダー性が育った。また、学校全体で取り組む活動で、児童相互の好ましい人間関係が育ってきた。
- 3 郷土を愛する児童を育てる。
 - ・ 学習発表会を地域の文化発表会と合同で行い、たくさんの方から拍手をいただいた。お年寄りとの交流会も全学年実施した。スキー教室は、子どもの思い出に残る楽しい学習になった。
- 4 地域や保護者から信頼される学校をつくる。
 - ・ ホームページを週1～2回のペースで更新し、学校情報を積極的に配信できた。また、学校便りや学級便りを定期的に配布し、子どもの様子を分かりやすく保護者に知らせた。
 - ・ 「報告」「連絡」「相談」に努めた結果、重大な事故がなく、学校運営を行うことができた。

II 分析・改善方策

- 1 基礎学力の定着と自ら学ぶ力を育てる。(学力の向上)
 - ・ 基礎的基本的な学習内容を確実に習得すると共に、学力到達度確認テストを実施するなどして、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・ 児童が主体的に学習できるよう、引き続き問題解決的な学習の進め方を研究する。
 - ・ 教科授業だけでなく、学校生活全体で表現力の育成に努める。文章表現力の向上にも努める。
 - ・ 引き続き個に応じた指導を充実すると共に、家庭学習の習慣化も図る。
- 2 児童理解を深め、やさしく思いやりのある児童を育成する。(豊かな心の育成)
 - ・ 学校内で機能する生徒指導体制を整える。また、保護者との連絡を密にして、保護者と共にいじめのない学校づくりをすすめていく。
 - ・ 縦割り班活動に明確なねらいをもって実施することにより、高学年のリーダー性や、他人を思いやる心を育てる。
- 3 郷土を愛する児童を育てる。
 - ・ 閉校後も地域行事に積極的に参加し、地域の方と交流していく。
- 4 地域や保護者から信頼される学校をつくる。
 - ・ 学校ホームページを閉鎖することなく、数年間は閲覧できるように保存していきたい。

2 学校関係者評価委員会

寺 本 智 行 (学校評議員)

寺 坂 美津子 (学校評議員)

田 中 弘 (学校評議員 前PTA会長)

南 都 正 道 (現PTA会長)

3 学校関係者評価

- ・ 授業では、子どもたちが、真剣に学習していた。加茂小でも今の調子で勉強できたらよいと思う。
- ・ とても分かりやすい授業が展開されていてよかった。
- ・ 放課後学習等、熱心に指導していただきありがたい。
- ・ 少人数指導もよいが、多人数であれば他の人の様々な考えを聞くことができる。
- ・ やはり、6人と3人では学習の雰囲気が随分違う。加茂小に行けば、自分の考えを伝える力がより一層育つと思う。
- ・ 「学校でつらい思いをしている児童がいる」と相談を受けたが、学校での状況が改善されているということが分かったのでよかった。
- ・ 加茂小に行くと、人数が増えるため教師の目が届きにくくなる。保護者は、我が子様子をよく見ていかなければならない。そのためには、保護者同士が仲良くなることが大切である。
- ・ 阿波のよさに触れる様々な活動は、とてもよいことだと思う。
- ・ お年寄り等との交流は、とても楽しみにしている。小学校がなくなっても続けていってほしい。
- ・ 学校便りを毎月送っていただくので、学校の様子はある程度分かる。
- ・ ホームページを見ることができない人も多いので、これからも様々な方法で学校情報を知らせしてほしい。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

学校統合により阿波小学校は、平成25年度末をもって閉校し、来年度は加茂小学校で学ぶこととなります。